

手術ありの患者に対する肺血栓塞栓症の 予防対策実施率

肺血栓塞栓症を引き起こすリスクの高い患者様に対する、予防対策の実施割合を示しています。肺血栓塞栓症はエコノミークラス症候群ともいわれ、血栓が肺に詰まることで呼吸困難や胸痛を引き起こし、死に至ることもある疾患です。寝たきりの方や下肢の手術後に発症することが多く、弾性ストッキングの着用など適切な予防対策が必要となります。

【当院の活動】
全身麻酔や脊髄くも膜下麻酔で手術を受ける患者様には、弾性ストッキングや血栓予防装置(フットポンプ)を着用し血栓症の予防策を実施しています。手術後も患者様が歩き始めるまでは血栓予防装置を使用して、肺血栓塞栓症を未然に防げるよう取り組んでいます。

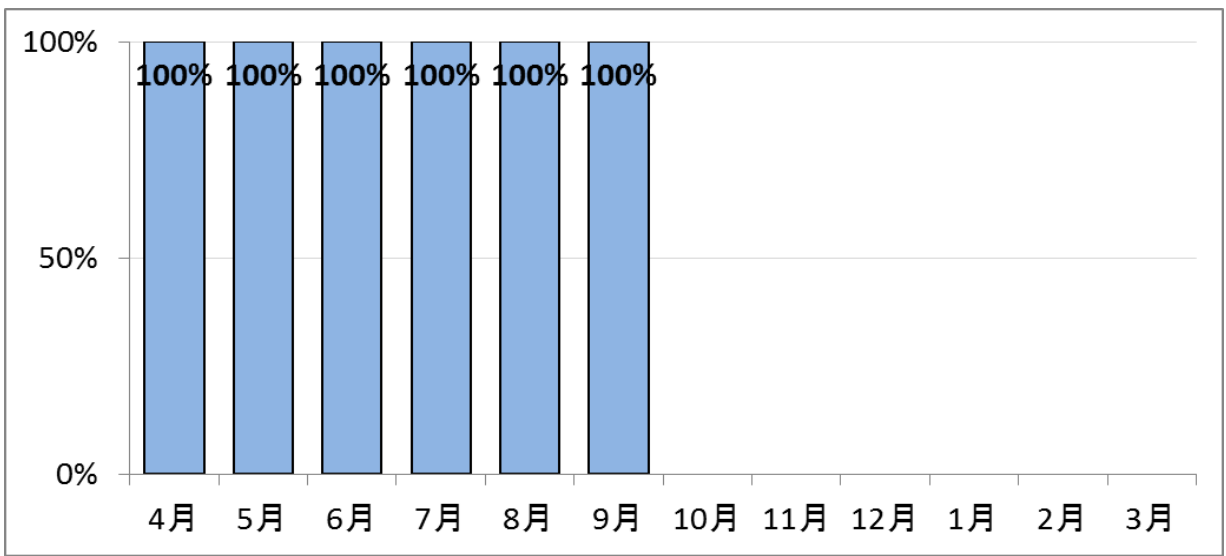
対象病棟： 一般病棟

計算式：
 分子) 「肺血栓塞栓症予防管理料」が算定された退院患者数
 分母) 全身麻酔かつ肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数

対象期間： 毎月

データ件数:

	2022年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
分子	28	19	28	20	20	18						
分母	28	19	28	20	20	18						
実施率(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%						



●年度別比較

データ件数:

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
分子	254	251	280	250	210	255
分母	254	251	280	250	210	255
実施率(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%

